



# 理系女子 夢みつけ★

応援プロジェクト in しずおか

## ロールモデル集

静岡大学

「理系女子 夢みっけ☆応援プロジェクト in しずおか」(通称:リケしず)のロールモデル集を手にとっていただきありがとうございます。

リケしずは、「理系に興味はあるけれども、不安感もあって一歩が踏み出せない」という女子中学生・女子高校生と、その保護者・先生方を応援するための企画です。2016年に、科学技術振興機構(JST)「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択を受けてスタートしました。

静岡県のものづくりや産業技術にも多様な背景をもった人々のアイデアが必要ですが、国際的にみても日本はまだまだ女性技術者・研究者が少ないことが問題です。地域の課題を解決すべく、「リケしず」は、静岡大学、静岡県立大学、ふじのくに地球環境史ミュージアム、静岡科学館る・くるなどの実施機関と、地域の連携機関<sup>(\*)</sup>とで開催してきました。

今回、静岡大学では、本学が発行する広報誌『SUCCESS』に掲載された卒業生インタビューを再構成して、理系に進路を進めた本学の卒業生の歩みをまとめたロールモデル集を作成いたしました。

このロールモデル集が、理系進路に興味をもつ女子中高生はもちろん、中高生の夢を少しでも応援できるものとなれば幸いです。

「リケしず」実行委員会



\* 連携機関(順不同)：

静岡市教育委員会  
浜松市教育委員会  
独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校  
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所  
株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社  
スズキ株式会社  
浜松ホトニクス株式会社  
浜松科学館  
一般財団法人静岡県環境資源協会



## 目 次

戸倉 由貴	株式会社ミダック／大学院農学研究科出身(2019年秋号)	3
宮崎 真太郎	マツダ株式会社／工学部出身(2019年秋号)	4
金 ヨンソ	トヨタ自動車株式会社(開発企画)／情報学部出身(2019年春号)	5
武 亮介	中外製薬株式会社／農学部出身(2018年春号)	6
孫 暁維	株式会社野村総合研究所システムエンジニア／情報学部出身(2017年秋号)	7
橋本 あゆ美	タキイ種苗株式会社／農学部出身(2017年春号)	8
小村 美香	東海漬物株式会社／農学部出身(2016年春号)	9
藤井 穂菜美	株式会社小糸製作所／理学部出身(2015年春号)	10
早川 智子	プライムアースEVエナジー株式会社／工学部出身(2014年秋号)	11
小林 友香	株式会社J-オイルミルズ／農学部出身(2014年春号)	12
関口 裕香	日東電工株式会社／教育学部→教育学研究科→電子科学研究科(2013年秋号)	13
鳥井 さきこ	シンガーソングライター／理学部出身(2013年春号)	14
なぜ日本政府は、女子中高生の進路選択を支援するの…?		15
なぜ日本では、理系を選択する女子中高生が少ないの…?		17
なぜ静岡県では、理系を選択する女子中高生が求められるの…?		18

●上記目次P3～14の( )内は、〈静岡大学広報誌 SUCCESS〉におけるそれぞれの掲載号を表しています。

●各ページの卒業生のプロフィールは〈SUCCESS〉掲載時のもので、現在の所属、肩書などとは異なる場合があります。

# Yuki Tokura

戸倉 由貴

(静岡県立三島北高等学校 出身)

## プロフィール

1987年生まれ

2012年3月 静岡大学大学院 農学研究科  
共生バイオサイエンス専攻 修了

2012年4月 株式会社ミダック 入社  
職種：事務職(人事)

趣味 = 旅行(温泉、食べ歩き)、ライブ

好きな言葉 = 「明白やろうは、ばかやろう」



友人と岐阜県へ旅行に行った時の写真です。下呂温泉名物の足湯。食事もとても美味しかったです。

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか —

①静岡県東部で育ち、②農業や環境に興味があり、③入学できそうな偏差値だった、この3つが静岡大学を選んだ理由です。ただ、今思い返すと、講義・フィールドワーク・実験等のカリキュラムはとても充実していましたし、多くの県外入学生がいたことや3年以降は留学生との接点があったことは、私にとって良い刺激になったと感じています。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか —

大学1~3年生は講義・アルバイト・遊びの三拍子でしたが、研究室配属を機に微生物研究漬けの毎日になりました。朝から日を跨いで実験を行うことも多かったですが、仕事に対するスタンスはこの時間のおかげでできたと思います。丁寧に指導してくださった小川教授をはじめ、一緒に励んでくれた先輩・同期・後輩には感謝の気持ちしかありません。

### ●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか —

仕事を選んだというよりも、廃棄物処理という「環境保全に繋がる事業」「人の当たり前の生活を守っていく事業」「誰もやりたがらない、だけど必ず世の中に必要な事業」を行っているミダックに魅かれて、「この会社に入りたい!」という気持ちをもったことが入社を決断した理由です。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは —

廃棄物処理の最前線で働く社員の【働く環境】を守るための仕事をしていると自負しています。人事というと採用活動をイメージされやすいですが、それ以外にも労務管理・労働安全衛生・諸制度の整備・等々を通じて、社員が公私において「安心して仕事・生活をするができる環境を提供する」という重要な役割があり、そこにやりがいを感じます。

### ●本学在学中を振り返って感じる。静岡大(後輩)へのメッセージは —

卒業から丸7年が経ちましたが、様々な喜怒哀楽があり、それを周りにいてくださった方たちと共有できたことは私の大切な財産です。学生でいる時には気づ

かなかったことも、長い時間を経て実感することがたくさんあります。目の前にある時間を大切にしてください。

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは —

採用活動でも学生から良く聞かれる質問ですが、これ!というものは思い浮かびません。ただ、よく食べる・よく寝て健康でいること、勉強と仕事とプライベートに励むこと、家族や友人と過ごす時間を大切にすること、入社前の内定者にはこれらをお願いしています。



2020年度の入社内定者と先輩社員の交流会の様子@富士宮事業所。仕事の話よりも趣味や大学の話などで盛り上がりました。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは —

【体の健康】はもとより、当社も管理職をはじめとする全社員への継続教育として企画している【ラインケア・セルフケア】という【心の健康】について考えていただくことも大切だと思います。知識や経験も大切ですが、心身を整えることも仕事に必要不可欠です。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は —

恩師は、農学部 環境微生物学研究室の小川直人教授、鮫島玲子准教授です。特に小川教授からいただいた「なんのために研究をしているのか、よく考えて」という言葉は、今でも印象に残っていますし、常に頭において仕事にも活かしています。

### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など —

サークルには所属せず、北関東~大阪の間で好きなバンドのライブを回っていました。アルバイトはCDショップで約4年、その他に塾講師やイベントスタッフも経験しましたが、その全てをライブにつぎ込んでいたので常に金欠状態...ただ、様々な土地に行けたことや人と繋がれたことは今でも良い思い出です。

竜場(浜松アクタワー 24階)から見える景色。浜松の駅北を一望することが可能です。また天気の良い日には、富士山を見ることが出来ます。



# Shintaro Miyazaki

## 宮崎 真太郎

(長崎県立島原高校 出身)

### プロフィール

1991年生まれ

2015年3月 静岡大学 工学部 電気電子工学科 卒業

2015年4月 マツダ株式会社 入社

職種：商品戦略本部 技術企画部

趣味 = 趣味:自動車・バイク整備

好きな言葉 = 「枯れた技術の水平思考」横井軍平



会社コピーにて、新型車と私。前部門ではこの車のブレーキ開発を担当しました。

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか――

高校時代の恩師に、将来モノづくりに関わる仕事を志すなら静岡大学を検討してみてください、と紹介していただいたことがきっかけです。工学部のある浜松市は「ものづくりのまち」として知られており、自動車メーカーや医療機器メーカー等、世界的に注目されている企業と共同で研究を行っていることが印象的でした。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか――

現役の工学部生の方も感じているかもしれませんが、講義や課題に追われる日々を送っていました。特に週に2回の実験講義は前後課題があり、非常に苦労した記憶があります。そんな中でも部活動やアルバイト、趣味の時間を確保するために夜更かししたりもしました。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは――

高校時代に抱いていた「モノづくりに関わる仕事をしたい」という将来像は、在学期間を経て「自分自身が中心となってモノづくりをけん引したい」とより具体的なものに変っていきました。自らモノづくりの企画・開発・販売まで一貫して関わることが将来の目標となりました。



クセのある先輩方とはプライベートでも交流があります。

### ●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか――

就職活動中に就職ポータルサイトで目にしたことがきっかけです。もともとは浜松市周辺の企業への就職を考えていましたが、他の自動車メーカーと比較して、規模は小さいながらも技術力の高さで存在感を放つ職人のような企業だと感じ、その中で活躍したいと考えました。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは――

現在私はマツダ株式会社の目指すVisionを描いて、そこにいたる道筋を技術視点から提示し、選択する技術企画部という部署に所属しています。日々、会社

の将来を左右する難しい業務に追われていますが、会社の意思決定に関わっていることにやりがいを感じています。今後はモノづくりをけん引する企画領域の上流であるこの部署で、中心となって活躍できる存在になりたいと考えています。

### ●本学在学中を振り返って感じること。静大生(後輩)へのメッセージは――

#### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは――

大学生活期間は自分がやりたいことに時間を気にせず没頭できる最後の期間だと感じています。在学中を振り返ると、あの時言い訳せずにやっておけばよかったという後悔がいくつかあります(バイクで北海道へ行く、海外留学に行く等)。はじめから自分で制約を作らず、やりたいことの一覧を卒業までに全部やってやる!という思いをもって学生生活を送ってほしいと思います。

#### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは――

現在、日本の製造業は良いものを作るだけでは選んでもらえない、という難しい問題を抱えています。モノづくりに関して、技術や製品を自らの言葉で伝えるプレゼンテーション力は欠かせないものとなっています。そのため、語るエンジニアになるための「技術プレゼンテーション講義」が必要ではないかと考えます。

#### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は――

音情報処理研究室の立蔵先生には大変お世話になりました。特に、毎週持ち回りのプレゼン形式勉強会での経験は、現在の私の業務において資料作りや話し方などの考え方の基礎となっています。ちなみに、エンジニアのプレゼン力に関する考えは立蔵先生の受け売りです。

#### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など――

生活費と趣味に使えるお金を増やすために、アルバイトを2つ掛け持ちしていました。飲食店アルバイトを大学1年生の春から卒業直前まで勤め上げました。また、賭けが出るため食費が浮いて非常に助かりました(笑)。もう一方は深夜の駐車場管理のアルバイトで、仕事の合間に自由な時間が多かったので課題や読書をしていました。いい条件のアルバイトはないか、フリーペーパーには必ず目を通していましたね。



初めて購入した車で祖母とドライブ。オープンカーの魅力に取りつかれてしまいました。

# Kim Yeonsoo

金 ヨンソ きむ・よんそ

(韓国ソウル市 祥明高等学校 出身)

## プロフィール

1992年生まれ

2015年 静岡大学 情報学部 情報社会学科 卒業

2017年 静岡大学大学院 総合科学技術研究科 修了

2017年 トヨタ自動車株式会社 入社

職種：技術(開発企画)

趣味 = 映画鑑賞とドライブ

好きな言葉 = 「What is food to one,  
is to other bitter poison.」



愛知県庁公開日イベントに弊社のブースでお越しいただいた愛知県の大村知事と共に撮影しました。大村知事のツイッターにも投稿され、とても嬉しかったです。

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか —

英語の教育が充実しており、留学生であった自分には日本語だけではなく英語まで身に付けることができる大学だと思ったからです。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか —

大学内で日本人の友達だけではなく様々な国の友達との交流を行うことで、日々新しい文化を体験しながら過ごしました。また、アルバイトとして韓国語の講師を6年間務め、母国の文化を日本に紹介するなど貴重な経験をさせていただきました。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは —

国際的に活動ができる人材になりたいと、グローバルな企業で働きたいと思いました。静岡大学で身に付けた知識を世界で活用したかったのです。

### ●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか —

様々な情報から必要なものを洗い出し、開発につなぐ仕事をやりたかったです。最新情報を受け入れることに興味を持っていたため、企画を明確化するために業界・他国の動向などを把握してものづくりに貢献できる仕事を選びました。現在はV2X (Vehicle to Everything) 開発を企画する仕事に従事しています。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは —

中国・欧州・アメリカなど様々な国の関係者と共に仕事をすることができ、様々な文化を体験しながら自分の視野を広げていると思っています。また、自分が企画した内容が商品化に繋がった時、とてもやりがいを感じます。

### ●本学在学中を振り返って感じること。静大生(後輩)へのメッセージは —

自分の可能性は自分で見つけるべきだと思いますが、その可能性に気づいてくれる周りの人々が何よりも大事だと思います。先生・先輩・同期・後輩など周りとのコミュニケーションを大事にすると、自分も知らなかった可能性を見ることができるかもしれません。日本語が未熟でうまく周りとのコミュニケーションがとれなかった私は、いつも発表用資料に工数をかけ、伝えたい情報を視覚化してきました。その中、先生や同期に「より明確に情報を伝えることができる資料作りの方法って何だろう」と言われたことをきっかけに論文テーマを決めました。そして、卒業論文「プレゼンテーション制作ガイド」を作成し、情報処理学会にて奨励賞を受賞することができました。

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは —

様々なコンテストや学会などに参加することで、自分の

新しい可能性を見つけるべきだと思います。

私は、学部3年生の時、研究室のメンバーと「ビジネスコンテスト」に参加しました。そこで1人用車(COMS)によるカーシェアリングを企画し、優勝することができました。その際MaaS (Mobility as a Service) やMSPF (Mobility service platform) などに初めて接することができ、現在の会社に興味を持つきっかけとなりました。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは —

より様々な国の学生とのコミュニケーションをとる授業が増えるといいなと思います。大学生活の中で様々な経験することにより、将来の選択肢が増えるかもしれません。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は —

私は、日本語も未熟でよく単位を落とす学生でした。落とした科目の担当教員であった湯浦克彦先生を訪問し、再受講に関する相談をしました。その際、湯浦先生からのご指導を通じて自分の問題点や今後やるべきことを知ることができました。その時は大変でしたが、やるべきことをやっているうちに自分の興味のあることが明確になり、大学院まで進学することができました。また、湯浦先生の授業は様々な企業関係者と接する機会が多く、企業関係者に自分の課題に対する意見を聞くことができるなど、とても貴重な授業だったと思います。

### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など —

私は中学生・高校生の生徒たちに英語と数学を教える講師のアルバイトをやっていました。生徒たちとのコミュニケーションを通じて大学では経験できなかった日本の新しい文化に接することができました。



静岡大学出身の会社同期たちと撮影した写真です。現在はみんな違う領域で働いており、お互い情報共有しながら一番支え合う関係になっています。

# Ryosuke Take

## 武 亮介

(加藤学園院秀高等学校 出身)

### プロフィール

1989年生まれ

2012年 静岡大学 農学部 応用生物化学科 卒業

2014年 静岡大学大学院 農学研究科

植物機能生理学研究室 修了

2014年 中外製薬株式会社 入社

職種：医薬情報担当者(抗がん剤専門)

趣味 = 家族でお出かけ、家電製品、バスケットボール

好きな言葉 = 「克己」、「石を運ぶ人、城を作る人」



オフィスにて一日の資料準備と論文チェックをしているところ。



休日はほとんど家族とお出かけ。(写真は水族館にて)

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか—

静岡生まれ静岡育ち、慣れ親しんだ静岡に残りたいというのが一番大きな要因でした。また当時は、静岡の豊かな自然を守ること、広げることに関心があり農学部を選択しました。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか—

卒業研究を始めるまでは、所属するバスケットボール部とアルバイト中心の生活を送っていました。

昼間は講義、夕方に部活動、そして深夜までアルバイト。研究室所属後は、一気に研究センターの生活になり同期の仲間と深夜まで実験や資料作成に没頭していた気がします。現在の仕事における基礎体力やスキルのベースは、全てこの学生時代に築いたものだと言っています。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは—

「なにをしたいか、どこにいたいか」ですね。生涯サイエンスに携わり続けながら、できれば静岡に近いところにおいて、楽しく社会人生活を送るためのイメージを描いていました。

### ●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか—

「自分にむいている」と思ったからです。研究室所属時代を振り返り、自分は論文等から新しい情報を仕入れたり、資料を作成したりということに楽しさを覚える一方で、恥ずかしながら、肝心の実験が苦手でした。そういったことから、学術営業のような職種が存在を知り、その中で現在の医薬情報担当者の職を選びました。情報が命の職種ですので、研究室時代と変わらないかそれ以上に論文等の最新情報にアンテナをはっています。そういった情報を医師とやり取りする日々は想像以上に楽しく、今の職種を選んでよかったと感じています。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは—

情報を医療関係者とやり取りしていく中で、少なからず医療や患者への貢献を実感する瞬間に巡り合います。

私の提案で治療内容が変わりその治療が奏功した、そういった事実を医師からフィードバックしていただいた時、自分の存在意義が肯定されたような気がしてとても嬉しいです。また、医学、特に癌治療に関する知識が深まったことも大きいと思っています。2人に1人が癌になるこの時代、癌治療において知っていて損な知識はひとつもないと感じています。

### ●本学在学中を振り返って感じる。静大生(後輩)へのメッセージは—

人生で一番自由に自分の時間をコントロールできるのは、おそらく大学時代ではないかと考えます。本当に貴重な4年間だと思います。是非、色んなことにチャレンジして欲しいと思います。大学生活での習慣や経験がその後の生活にも大きな影響を与えると痛感しております。

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは—

研究でも部活でも、必ずひとつは「これ以上ないくらい頑張った」というものを作ったほうが良いと思います。後々、自分を支える財産になります。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは—

ビジョン教育です。熱い志をお持ちの方の講演を聞くだけでも勉強になると思います。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は—

森田 明雄 先生、一家 崇志 先生

### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など—

バスケットボール部に所属し、アルバイトは飲食店で深夜までしていました。



年に2回は静岡に帰省。(写真は伊豆にて)



大学時代、研究室の仲間と。(左から2番目が私)

# Sun Xiaowei

孫 曉維 そん・しやうい

(福井県立高志高等学校 出身)

## プロフィール

1988年生まれ

2012年 静岡大学 情報学部 情報社会学科 卒業

2012年 株式会社野村総合研究所 入社

職種：システムエンジニア (Sier)

趣味 = 旅行、読書、お料理会

好きな言葉 = If you can dream it, you can do it.



趣味の旅行@富山



インド出張で出会ったチームメンバー



趣味の料理パーティ

## ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか —

降水率が高い北陸で育ち、いつも太平洋側地域の天気予報の晴れマークを見て羨ましく思っていたため、大学進学は絶対太平洋側の地域とだけは決めていました。父親の影響でITに興味を持っていたところ、同級生が偶然持っていた静岡大学の紹介冊子で情報学部を見つけ、文理融合で「IT×マネジメント」を学べるという特徴に引かれ、進学先として選びました。

## ●どんな学生生活を過ごしましたか —

何かをやるなら3年間は続けたいと、入学当初から考えていました。学業以外で、ダンス部、学生団体、家電量販店でテレビを売るアルバイトを3年間やった後、企業へのインターンを経て、大学4年生は休学してカナダに留学しました。いろいろやる中で一番意識していたことは、「何のためにやるか」と目的を持つことです。復学後は、それまでの経験と気付きを、静大(特に情報学部生)に活かしたくて、卒業研究の一環で「静大ビジネスコンテスト」を開催しました。多くの方の協力を得ながら、校内外の学生や社会人を巻き込んで手探りで始めたビジネスコンテストが、今では所属していた研究室の後輩たちが毎年行う恒例行事となっていることが何より嬉しいです。

## ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは —

私が就職活動をしていた頃はリーマンショック後で、かつ東日本大震災が起こった年でした。地域の復興に直接携わろうとしている方もたくさんいる中、私の進路はこれで良かったのかと正直悩んだこともありましたが、この仕事は長い目で見て、きっと多くの方の役に立てる。価値を生み出せると思い最終的に決断しました。そして、早く価値を生み出せるようになるためにも、「何のためにするか」としっかり目的を持って仕事に向き合いたいと考えていました。

## ●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか —

大学3年のときに企業へのインターンに参加し、ITを使って世の中の課題を解決するという「0から1を生み出す」ことを少し経験しました。解決のプランを作って終わるのではなく、解決するために必要なアプリケーションを実際に作るまで行い、自分のアイデアを形あるものに落とし込むプロセスの面白さと、アプリケーションが完成した時の達成感、誰かの役に立っているという実感が強く印象に残りました。いつか自分が開発したシステムやITサービスが世の中の「当たり前」の一部となって、企業の業務や人々の生活を支えたいと思い、この仕事を選びました。

## ●現在の職業に就かれてよかったことは —

私はシステム開発の上流と言われる、顧客の要望や課題を聞いて要件を整理し、システムの外枠の設計をする部分の仕事を中心にしています。この仕事は正解が無いことへの取り組みの連続です。顧客の課題を解決する方法は何通りにもあって、状況に応じて選択していかなければならない。私の仕事は解決方法を見つけることだけでなく、顧客が選択、決断できるように提案やサポートすることも必要です。大規模なシステム開発のプロジェクトに参加すればするほど、関わる人も、人の思い、技術も多くなり、複雑に関係しあって、解決方法を見つけることや提案活動がスムーズに行かないこともあります。簡単ではないからこそ、紆余曲折を経てシステムができあがって利用者の手元に届き、役に立っていると考えた時に、苦労した分喜びと達成感が大きく、とてもやりがいを感じます。

## ●本学在学中を振り返って感じる。静大生(後輩)へのメッセージは —

スティーブ・ジョブズのスタンフォード大での有名なスピーチの中に、点と点を繋げることについての話があります。私にとって学生時代は、勉強、活動、人と交流することで自分の幅を広げ、考えを深める、つまり「点」を作る時期でした。社会人になると、自分が持っている点と点を結び、成果や新しい価値を出すことが必要になる場面は多々あります。そのため、多くの「点」を持っている人は、多くの価値を生み出しやすいかと思えます。時間や環境の制約が多い社会人にとって、新たに「点」を増やすことは、とても労力があることです。ぜひ学生時代の貴重な時間を使って、自分らしい「点」を増やす活動をしてもらえたらいいなあと思います。

## ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは —

- ・ 旅をする
- ・ 様々なジャンルの本を読む
- ・ 自分と異なるバックグラウンドの人たちと接する

どんな仕事や活動でも、自分一人で完結するものは無く、必ず関わる他者が存在します。よく「他者の立場に立って物事を考えることが重要」と言われますが、他者の立場・気持ちを理解するためには、想像力が必要です。旅や本を読む、人と接することは、経験や知見が増えるだけでなく、「想像力」が身に付くと私は思っています。

## ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは —

学生が大学の授業で学んだ知識を横断的に使い、何らかの形で表現した成果物を社会に送り出し、一般の人の評価や感想を得られるような体験ができる授業があったらいいなあと思います。評価を受けることで、自分の考えと周りの考えのギャップや、自分ができていること・不足していること、もっと学ぶべきことが見えてきて、それらを学ぶために能動的に授業や他の活動への参加ができるようになるのではないかと思います。

## ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は —

① キャリアデザイン授業の佐藤龍子先生：先生は、学生生活から飛び出した後の社会とはどんなものか、それに向けて今何をすべきかをイメージさせてくださいました。佐藤先生と出会ったからこそ、学生生活が充実したものになりました。

② 研究室教授の湯浦克彦先生：具体的なプランも無く、突然卒業研究で「静大ビジネスコンテスト」をやると言い出した時は、どうなるのかと不安ながらも応援してください、たくさんのアドバイスを頂きました。今でも静大ビジコンが続いているのは他でもない先生のおかげです。よく、夕方くらいの時間に教授室に行き、悩み相談や最近考えていることを取り留めも無く先生に話しては、先生はいつも最後までその会話に付き合ってくれたのが一番の思い出です。

## ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など —

土日に家電量販店でテレビを売るアルバイトをして、3年間で1億円の売り上げを達成しました。このアルバイトを通じて、販売という仕事は「モノ」を売っているのではなく、「自分自身」を売り込んでいるということ、お客様から「この人から買ってもいいかな」と信頼してもらえることが大事だと気づきました。そのためには自分視点ではなくお客様の視点で、お客様自身にその商品が生活にもたらす豊かさをイメージするよう導くことが重要だと学びました。このアルバイトの経験は、後々社会人になってからもとても役に立っていると感じています。



# Ayumi Hashimoto

## 橋本 あゆ美

(静岡県立静岡高校 出身)

### プロフィール

1971年生まれ

1993年 静岡大学 農学部 生物生産科 卒業

同年 静岡大学 大学院 農学研究科 入学  
(1994年2月中退)

1994年 オハイオ州立大学 園芸科学部 入学

1997年 同大学 修士修了

1997年 フロリダ大学 環境園芸部 園芸科に  
研究員として就職

2001年 同退職

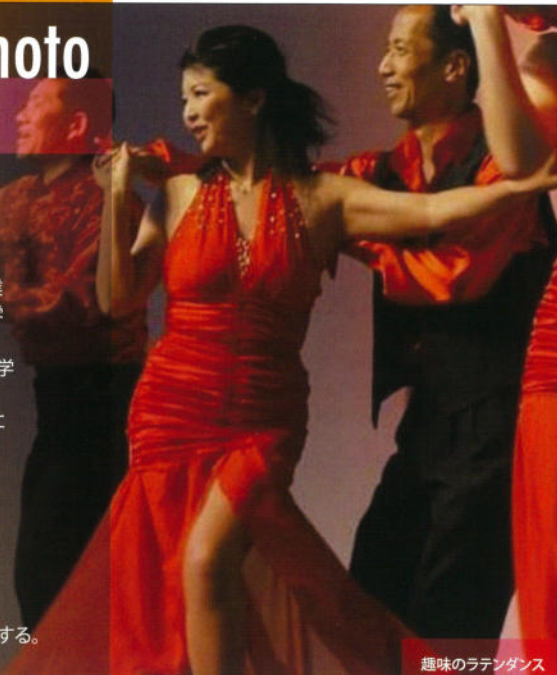
2002年 タキイ種苗株式会社 入社

現在 同社 海外営業部 草花課 課長

職種：草花種子の販売推進

趣味 = サルサダンス

好きな言葉 = 明日死ぬとって今日の事をする。



趣味のラテンダンス



中国での栽培講習会の様子

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか —

東京の大学に進学希望でしたが、そちらは落ちてしまい、一度は浪人して東京の大学に行く決心もしましたが、浪人にかかるコスト等両親と相談した結果、静岡大学に進学して一人暮らしをした方が経済的にも助かるという事だったので、決めました。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか —

とにかく楽しく過ごしたい、という考えを持っていました。管弦楽団に入って部活動も頑張る、またクラスの皆と静波海岸にサーフィンに行ったり、富士山に車で行ったりなど、休みはとにかく満喫していました。学業も、成績が良ければ金銭面でのサポートを十分にしてくれるという親との約束があったので、必死に頑張りました。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは —

当時はバブルがはじけた直後で皆就職に関して不安に思っている時代でした。私はもっと勉強がしたかったのと、父が大学の教授であったので、勉強の延長から最終大学に就職してもいいかな、という考えもあり、院に進む事を決めました。正直、働く世界に出るのが怖かった気持ちもあったように今では思います。

### ●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか —

アメリカのThe Ohio State Universityの大学院に合格したので、静岡大学の院を中退してそちらに進学をしました。海外の大学院を出てみて思ったのは、私には博士は向いていないという事でした。ただ、アメリカには住み続けたかったのでその後研究職の道へと進みましたが、ビザの関係で日本に戻らねばならなくなりました。最初、農学関係の会社に履歴書を送りましたが門前払いを食らっていました。海外に通じていたい気持ちが強かった為、色々な業種の海外関係に就職活動しましたが、農業系で院まで出ているのにキャリアを変えるのはもったいないではないか、と面接で説得される事も有りました。最終的には就職先が見つからず、当時の静岡大学の恩師の大川先生に相談したところ、タキイ種苗に知り合いがおられ、お聞き頂いたところ、たまたま海外営業部に空きがあったために今の職に決まりました。



オーストラリアのお客様と商談の様子

### ●現在の職業に就かれてよかったことは —

様々な国に出張させて頂いた事が本当に自分の成長に繋がりました。植物は育てる環境によって様々な反応をする、大学の植物生理で勉強した事がその場で体験できるという本当に貴重な経験があった事と、また現場での栽培のしかた、ビジネスの方法、人の生き方等本当に様々で、人生の勉強にもなりました。

### ●本学在学中を振り返って感じる事、後輩へのメッセージがあれば —

静岡大学はとっても広々とした環境で勉強ができて、自然も近く、それなりに楽しめる街もあっていい大学だと感じました。少々の田舎ではありますが、その分都会ではできない事が出来たと思います。今の静岡はどんな感じかは分かりませんが、農学部は綺麗になったのを先日拝見してとても羨ましく思いました。みなさん自分の置かれている環境はとっても良い環境と認識して、勉強を楽しんでください。

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは —

とにかく好きな事を好きなだけやって、ぶつかってもやり通すガッツを学生時代に養ってほしい。日本は本当に小さい国で、世界は広い。少々の事は空を飛んだら吹っ飛んでしまいます。やり通すと次につながる、そういう気持ちを持って何か小さな事から大きなことまで、遠慮なくやってほしい。私も友達と色々遊んでやってみて、失敗もあったけれども結局何とかなる、そう思えたので海外でも何とかやってこれました。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは —

世界を見据えて勉強できると良いですね。留学生との交流や、海外の先生を呼ぶなど。または日本国内でも色々な経験ができる事も確かなので、大学間の交換留学などがあっても良いと思います。同じ事を学ぶにしても、場所が違うと性質が変わります。そういった違う視点を、学んでほしいと思います。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生は —

大川先生は、海外を常に見て情報を下さり、大変刺激になりました。また実際担当して下さった狩野先生は常にビジネスの視点から物事を教えて下さり、非常に勉強になりました。同じ研究室にいらした糠谷先生は実際には教わる事はありませんでしたが、常に明るく前向きで、今でもご挨拶に伺いたい先生の1人です。先日退職されましたが、みなさん本当に私の人生にとって大事な先生です。

### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など —

サークルは管弦楽団に入っていました。大人気で音楽を仕上げていくチームワーク、感情を表現しなければいけない表現力など、仕事にも通ずることがあるなあと今更ながらに思います。音楽系のサークルはお勧めしますよ！バイトは色々やり、中でもレンタルビデオショップでのバイトは映画が大好きだったので長くやりましたが、本当に多くの名作にタダで触れる事が出来ていいバイトでした(笑)。喫茶店やレストランではおもてなしについて色々考える事が出来たので、それもいいバイトだったと思います。

# Mika Komura

## 小村 美香

### プロフィール

1983年 4月29日生まれ  
 2006年 農学部 応用生物化学科 卒業  
 2006年 東海漬物㈱ 入社  
 2010年 静岡大学大学院 自然科学系教育部(博士課程) バイオサイエンス専攻 入学  
 2014年 同専攻 修了  
 現在 東海漬物株式会社 漬物機能研究所 要素技術開発グループ 兼 商品開発グループ  
 職種：研究・開発職  
 趣味 = マンガを読むこと、アニメ・ライブ鑑賞  
 好きな言葉 = 諸行無常



職場にて



TBSテレビ「マツコの知らない世界」リハーサル風景

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか—

面白そうな微生物の研究室があったからです。小さい頃から地元・岩手を出てみなければならない、しかも東京より遠くは漠然と思っていました。自分の学力の範囲内と、つたないネット検索で、静岡と新潟の二択に絞り、静岡のほうが温暖な気候&茶道部だったこともあり、親近感を抱き、静岡大学を受験しました。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか—

視力が悪いのと、勉強をしに大学に来ているのだということを忘れないため、いつも一番前の席で授業を受けるようにしていました。他の同級生は後ろの席にいますので、あまり名前を覚えることなく卒業してしまいましたが、入学式で意気投合した親友がいつも隣で私以上のテンションで勉強してくれたので、モチベーションを保つのに大変助けられました。親友とはサークルも同じで、1に勉強、2にバイト、3にサークルの学生生活でした。

### ●静岡大学の卒業(終了)にあたり、将来について考えたことは—

正直、何も考えませんでした。微生物や発酵関係の仕事ができれば良いけど、生きていければ何でも良いやくらいの軽い考えでした。研究とバイトの両立で忙しかったこともあり、最初に内定をもらったところで就職活動は終了し、目の前の課題である卒業研究のことばかり考えていました。当時は、「私は今を生きる」が口癖でした(笑)。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは—

「食」は話が広がりやすい点です。また、『きゅうりのキューちゃん』の認知度が高く、みなさんにどんな会社かイメージしてもらいやすい点にも助かっています。例えば、ITや、精密機器を作っていると聞いても、他業種の方とその話題で盛り上がることは難しいと思いますが、食品だとみなさん普段の生活の中で話題をもっています。セミナーに参加して、課題の題材として取り上げてもらえることが多い気がします。また、東海漬物に入社したおかげで、全国版のTVに

出られました! 「マツコの知らない世界」に出られたこと、家族が喜んでくれたことは良い思い出です。さらに、仕事をしながら会社から大学院に通わせてもらい、博士号(農学)を取得することができました。勉強の機会を与えてくれる企業に入社できて良かったです。

### ●本学在学中を振り返って感じること。静岡大(後輩)へのメッセージは—

自分の人生にとって「大切なことは何か」考えたほうがよいと思います。私は、小学生から大学生まで、「先々」のためにとにかく今は勉強優先! という感じでしたが、その「先々」が「今」になった就職活動の時点で戸惑い、ちゃんと考えておけばよかったと後悔したことがありました。今目の前にある

ことをこなすことでいっぱいになりがちですが、すべきことをしながらも、自分の人生にとって大切なものは何かを大学1~2年までにしっかり、何度も考えていけば、そこからすべきことが見えてきて、迷うことなく進路選択ができるのだと思います。でも、どこで生きるかも大事ですが、そこでどう生きるかも大事だと、今になって思えるようになりましたので…大丈夫、なんとかなります。

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは—

①人生計画をしっかり立てること、②勉強、③貯金です。「大切なことは何か」につながりますが、どんなふうに生きたいのかという考えがまずあって、そこではじめて具体的に何をしておくべきかが見えてくると思うからです。どんなふうに生きたいかが決まった時に「それは無理です」とならないように勉強はとりあえず頑張っておくべきです。学生の本分は勉強ですし、親に苦勞させて行かせてもらっている大学です。奨学金は借金です。遊んでいる場合ではないのです。貯金に関しては、社会人1年目は家具や引越費用など何かとお金がかかるのに、給料は…厳しいです。1年目から1人立ちするためには貯金があると安心です。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは—

企業研究の授業があるとよいと思います。就活の時、学生も企業を選ぶ能力が必要ですが、実際どのように企業を見極めればよいのか、見極めるための情報はどう集めたらよいのか、私自身分かりませんでした。企業の将来性などを見極める訓練ができる授業があれば、学生は嬉しいと思います。また、仕事をする上で、純粋に何かをやりきる能力以上に、要領の良さが重要だと思います。「報連相」のタイミング、モチベーション、低姿勢…コミュニケーション能力と言えばソフトに聞こえますが、そんな軽い印象のものではなく、事前の根回しからの説得など、研究室でも教わるのが難しいように思います。授業では難しいかもしれませんが、大学のうちに知っていたら、社会に出てから失敗が少なかったらうなと思います。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は—

森田達也先生：学部生時代は担任の先生でした。就職してからも共同研究や、大学院入学、博士号取得まで大変お世話になりました。  
 衛藤先生：「漬物は生き物だ」と仰った先生の言葉が、漬物に興味をもつきっかけになりました。  
 田原先生 & 高坂先生：卒業研究でお世話になりました。卒業直前にめっちゃくちゃ怒られたことも、自分のためになりました、有難いです。

### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など—

サークル活動：スポーツサークル「ポポ」に所属していました。早朝集合、超本気のスポーツ、朝まで飲み会、鍛えられました。  
 バイト：入学直後から、イタリアン、店舗での新商品・食品・日用品販売員、居酒屋、家庭教師会社の教師・事務・営業、動物実験の補助、宅急便の荷物仕分け、コンビニなどたくさん経験しました。4年次は、寝る時間がないシフトで生活していたのが思い出深いです。お金がないけど卒業旅行に行きたかったので、6時~9時コンビニ → 9時~23時研究室 → 24時~5時宅急便の仕分け作業(しかもマクロなどの冷凍便)という生活リズムでした。鍛えられました。



ヨガインストラクター学校にて(逆立ちしているのが私です)。

# Honami Fujii

藤井 穂菜美

## プロフィール

1989年 12月生まれ

2014年 静岡大学大学院

理学研究科 物理学専攻 修了

2014年 4月 株式会社小糸製作所 入社

現在 同社 研究職

趣味 = 音楽鑑賞



先輩からオシロスコープの指導を受けている様子

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか —

高校時代、物理の授業が楽しく大学でも物理を学びたいと思いました。静岡には幼いころ住んでおり親近感があったため、静岡大学を志望しました。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか —

サークル活動が中心の生活を送っていました。陽気な仲間に囲まれて大変楽しい学生生活でした。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは —

家族はもちろん、友達、先輩後輩、先生と多くの人に支えられた学生生活でした。その人たちの期待に応えられるように、これからお仕事をしていきたいと思いました。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは —

私が入社した小糸製作所という会社はとても教育が充実した会社です。入社直後から行われる新入社員研修では、仕事に関わる専門的な知識からビジネスマナーなど一般的なことまで時間をかけて教育が行われます。現在の部署に配属されてからもOJT(オン・ザ・ジョブトレーニング=企業内教育)担当の方を中心とした部署の方々の丁寧な指導を受け、安心して仕事を行うことができます。

### ●本学在学中を振り返って感じる事。静大生(後輩)へのメッセージは —

勉強も大事だと思いますが、私の大学生活は本当にサークル活動が多くを占めていたと感じます。勉強以外でひとつのことに熱中できたのは現在でも励みになっています。また仲間たちと過ごした時間は本当にかけがえのないものです。後輩の皆さんも何かひとつのことに熱中してみてください。それがいつかきっと皆さんの自信や心の支えになると思います。

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは —

海外でも国内でもたくさんの場所に行ってみるといいと思います。自分が暮らしている場所とは別の文化に触れる経験を、時間のあるうちにしておけばよかったと思うので。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは —

理系の学部は英語の授業が少ないように思います。私も英語が苦手なので学生時代はラッキーぐらいに思っていたのですが、やはり英語は今後どの業種においても必要であると思います。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は —

研究室の指導教員である阪東一毅先生は学部生の頃からお世話になっていました。根気強く指導いただき大変感謝しています。気さくな先生なので、勉強のこと以外も話しやすく公私ともにお世話になりました。

### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など —

4年間ほど同じ飲食店でアルバイトをしていました。大学院生になると学部生のようなペースで行うことはできなくなりましたが、店長と奥様のご厚意で修了までアルバイトをさせていただきました。アルバイトを通じてお金を稼ぐ大変さと同時に、お客様に喜んでいただくうれしさを感じることができました。

### ●静岡大学(大学院)を卒業(修了)してよかったことは —

大学生活において、学科やサークルの仲間、先生、アルバイト先の店長たちなど関わったすべての人に恵まれていたと思います。特に研究室は進路について考える機会を先輩方からいただき、静岡大学でなければ今の自分はなかったと思います。



会社の同期たちで行った福岡旅行  
同期たちは仕事でもプライベートでも大切な存在(右手前が私)

# Tomoko Hayakawa

## 早川 智子

### プロフィール

1987年 12月生まれ  
2010年 静岡大学 工学部 物質工学科 卒業  
2012年 静岡大学大学院  
工学研究科 物質工学専攻 修了  
2012年 4月 プライムアースEVエナジー株式会社 入社  
現在 同社 技術部に勤務

趣味 = 旅行、ゴルフ



### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか —

小さい頃から理科が好きで、高校でも化学が得意だったため将来はモノづくりをしたいと思っていました。静岡大学は、地元の大学であり身近な存在でありながら工学部は歴史もあるところだったため、色々学ぶことができると思ったからです。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか —

入学当初、クォータ制が試験導入されていたため、朝から夕方までみっちり講義を受けていました。また、学生実験が始まってからは空きコマは図書館でレポートに取り組む毎日でした。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは —

将来について一番悩んだのは、大学3年時に就職か大学院へ進学するか決める時でした。学部時代に就職活動もしましたが、大学院へ進学しさらに研究を続けもっと専門知識と経験を積み、就職後は即戦力になるような技術者になりたいと思い結果的に進学を選びました。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは —

現在は、ハイブリッド自動車向けの電池製造メーカーに努めています。大学で学んだ材料の知識を生かし、開発から材料分析の仕事をしています。ハイブリッド自動車の需要は高く、入社当時からやりがいのある仕事をさせてもらっています。仕事以外でも、同期や先輩後輩ととても仲が良く、一緒に旅行に行ったりバスケ勝負をしたり週末も充実しています。



タイ旅行にて

### ●本学在学中を振り返って感じる。静岡大(後輩)へのメッセージは —

大学時代、私は勉強中心の生活で趣味や得意なことも無かったため、何かに挑戦するという事が少なく狭い枠の中にいた気がします。もっと新しいことに挑戦し、色々な経験をしてあげればよかったと、少し後悔しています。挑戦することに遅いも早いもありませんが、学生時代の若さと時間はとても貴重です!

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは —

大学時代には好きなことや興味のあることなど、とにかく何事にも挑戦する気合いが大切だと思います。会社では勉強してきた知識だけでは仕事はできず、様々な世代の人達と関わりながら、慣れないことにも挑戦しなければなりません。そんな

ときコミュニケーション力があり、どんなことにも臆することなく挑戦できるタフなメンタルを持っている人が強いです。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは —

体験型の授業は記憶によく残ります。実習や、実験、工場見学は興味も持ちやすく、良い経験になります。板書を写し、先生の話や聞き受け身の授業より、参加し自ら進んで取り組む授業が多いと学生の学ぶ意識も変わるかもしれません。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は —

創造教育での実習や、工作実習、物質工学実験は印象に残り、今でもかなり身になっています。物質工学科は作業をする授業が多く楽しかったです。印象に残っている先生は、研究室でお世話になった藤波達雄先生と田中康隆先生です。大学院までの3年間で実験の指導や研究のアドバイスをもらい、就職や将来についての悩みを聞いてもらったり、浜松の美味しいお店を教してもらったり一緒に飲みに行ったり色々な話をしました。佐鳴湖に研究室のみんなでお花見に行ったり、富士登山にご来光を見に行ったり、辛いことも楽しいことも全部一緒に分かち合ってくれた先生です。

### ●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など —

アメフト部のマネージャーを2年やりました。静岡キャンパスで練習をすることもあり、部活を通して静岡キャンパスの人とも交流ができました。また、アルバイトでは小学生や中学生に、工作体験や実験教室のティーチングアシスタントをやったことがあります。原理をわかりやすく子供に教えるのは難しかったですが、出来上がったもので一緒に遊ぶ時間は楽しかったです。

### ●静岡大学(大学院)を卒業(修了)してよかったことは —

今の仕事に就ききっかけにもなった、リチウムイオン電池の研究ができたことです。また、働く理系女子の悩みを相談し合える仲間に出会えたことです。



静大女子会



湖西おいでん祭にて

# Yuka Kobayashi

小林 夕香

## プロフィール

1976年 6月生まれ

2000年 静岡大学 農学部 人間環境科学科 卒業

2002年 静岡大学大学院

農学研究科 応用生物化学専攻 修了

2005年 岐阜大学大学院

連合農学研究科(静岡大学) 修了 博士(農学)

2005年 4月 株式会社J-オイルミルズ 入社

現在 同社 研究開発職

趣味 = 実験が大好きです

好きな言葉 = 自分の夢には努力は惜しまない



J-オイルミルズの研究室にて

## ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか——

生まれも育ちも静岡県だったため。

## ●どんな学生生活を過ごしましたか——

学部3年生の時はバイトばかりしていました。教職課程などは積極的に取っていました。

学部4年生で研究室に配属されてからは、土日も惜しみなく学校に行き、実験していました。

## ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは——

修士1年で周りの友人が就職活動をしていましたが、自分自身、企業に就職するという将来を描くことができませんでした。何か一つの事を成し遂げたい、それから、社会に出たいと思いました。

しかしながら、博士課程に進学して研究を進めることが自分自身でできるだろうか?という不安もありました。指導教官に、「自信がないながらも実験が好きなので博士課程に進みたい」と素直に相談しました。先生が(博士課程進学を)とても喜んでくれたことを覚えています。

今思うと、何気なく過ごす学生生活の中でも、様々なことの巡り合せと自分で考え、決定してきたのだと思います。また、両親のサポートがあったからだと思っています。

## ●現在の職業に就かれてよかったことは——

学部4年時には土壌酵素の研究をしておりました。修士1年から現在の職種に繋がる食品・医薬の基礎研究(=生化学的な研究)をスタート始めました。具体的には、キノコから有効成分を研究するテーマです。

博士課程に進んだ後は、将来は大学に残って研究したいと思っていました。そんな中、国際学会があり、現在の会社の方から声をかけていただきました。最も良かったことは、大学と同じテーマで、現在も研究を進めることができていることです。また、チームで研究する楽しみもあります。

## ●本学在学中を振り返って感じること。静大生(後輩)へのメッセージは——

大学の研究環境は本当に素晴らしいと思います。

今になって、もっと、もっと、勉強しておけば良かったと思います。後悔することもあると思うけれど、自分自身の意思で決めてほしいです。(私も何度も悩んだり、後悔したりしました。)

## ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは——

大学時代の友人は、一生の友だちだと思います。良い友人に出会ってほしいです。同時に、尊敬できる人、頼れる人、先輩・後輩など、人との繋がりを大切にしてほしいと思います。

## ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは——

英語の勉強。(今苦労しています。)

## ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は——

農学部生物化学研究室(私の原点です。)

## ●静岡大学(大学院)を卒業(修了)してよかったことは——

卒業しても、良い関係で先生方と研究を進めることができる。私にとっては、戻れる場所、頼れる恩師であり、安心感があります。卒業後も、こうした繋がりがあるのは、今の会社と恩師のおかげだと感じます。静岡大学の先生方は、私にとって、掛け替えのない存在です。



大学院の恩師 河岸洋和先生(左)とともに  
(2012年新規素材探索研究会 最優秀ポスター賞受賞の日)

## 株式会社J-オイルミルズ

2002年発足の(株)豊年味の素製油を礎とし、吉原製油(株)との経営統合を経て2003年4月に新たにスタートした、製油関連事業を主体とする業界トップメーカー。

植物油を中心にあらゆる食品のベースとなる素材や、栄養素、飼料、化粧品、メディカルサイエンス関連品など、食の豊かさや健康、身近な生活の充実に貢献するさまざまな商品を開発しています。

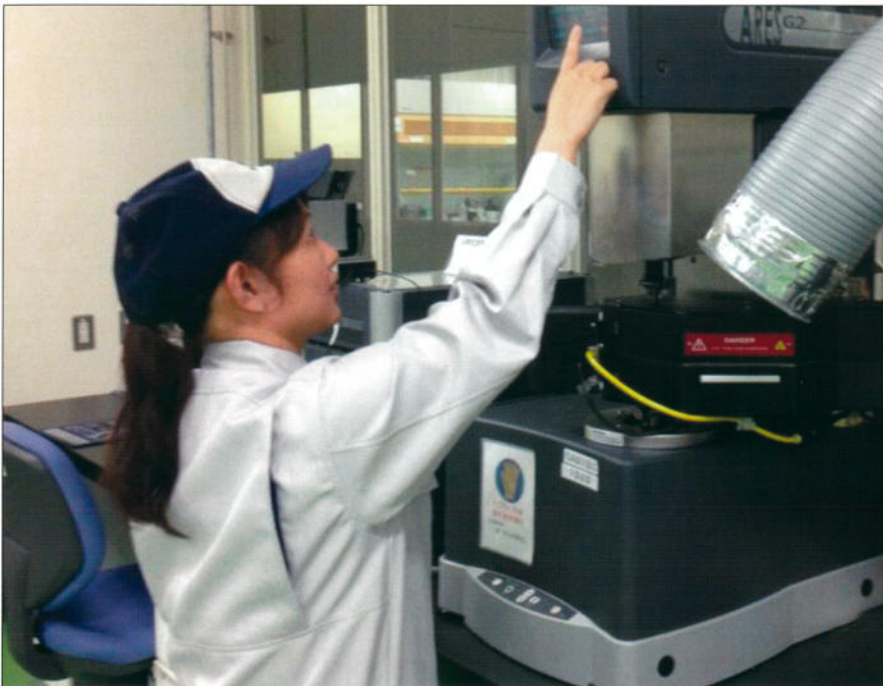
# Yuka Sekiguchi

## 関口 裕香

### プロフィール

1972年 11月生まれ  
1995年 静岡大学 教育学部  
中学校教員養成課程 家庭専攻 卒業  
1998年 静岡大学大学院  
教育学研究科 理科教育専攻 化学専修 修了  
2002年 静岡大学大学院  
電子科学研究科 電子材料科学専攻  
有機電子材料講座 修了  
2009年 2月 日東電工株式会社 入社  
現在 同社 豊橋事業所  
機能設計技術センター 第3グループ 主任研究員

好きな言葉 = 継続は力なり



### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか——

家政系関係の職業につきたい、家政学部や教育学部の家政専攻を受験しました。また将来、東海地区で仕事をしたいという思いと国公立大学という希望もあり、静岡大学を受験しました。

### ●どんな学生生活を過ごしましたか——

大学3年から被服材料研究室に配属になりました。もともと化学が得意で、実験が好きだったこともあり、研究にはまっていきました。研究室では、新しい高分子材料をつかってその性質を測定したり、その性質がなぜ発現するのかを調べたりしていました。そのため研究室にいたことが多かったです。院生時代は結婚・出産・育児を経験し、子育てしながらの研究生活でした。指導教員の澤渡先生をはじめとし、研究科の先生方、保育園の先生方、お母さん方といった多くの方にお世話になり、支えていただきました。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは——

頑張ってきた研究や知識を活かすため、材料メーカーの開発者になることを望んでいました。大学院修了後、すぐにはそのような職には就けなかったのですが、縁あって弊社の中途採用試験に合格でき、現職に就くことができました。

### ●現在の職業に就かれてよかったことは——

日東電工は「チャレンジする人を応援する」という会社で、スキルアップの場の提供を積極的に行っています。そのため、中途採用の私でもプロジェクトや緊急対策チームなどチャレンジする機会を与えていただきました。現在は、開発品の物性評価・構造解析を行い、次世代製品の材料設計を提案する業務を行っています。



日東電工株式会社

### ●本学在学中を振り返って感じる。静岡大(後輩)へのメッセージは——

毎年、インターンシップ制度を利用して数人の学生さんが弊社に来られます。単に就業体験としてではなく、社会人としての心構えや生活、人間関係を学ぶことができます。私が学部生や修士生の頃はこの制度がありませんでしたが、当時あれば活用していたと思います。インターンシップの体験を通して、就職活動への考え方や取組み方が変わるといいますし、就職したい業界・業種でなくてもその体験は必ず就職活動に役立つはずですので、ぜひ制度があれば利用してください。

### ●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは——

色々な世代の方や国籍の方と色々な話をし、周囲の人の考え方を理解する機会を作ってください。私は学部生の頃はお茶のお稽古に通い、年配の方や主婦の方、OLの方たちと話をしながら自分の知らない世界のことを教えていただきました。また、院生時代は留学生の方たちと交流する機会が多く、日本人とは異なった考え方や感じ方に接することができました。子供の保育園ではいろいろな職業のお母さんたちから、仕事に対する姿勢や育児について学ぶことができました。日々の仕事において、周囲の人を理解しその上で共通の目標に向かって協力しあうのがとても大事であることを感じています。学生のみならず、サークル活動、アルバイト、ボランティアなどを通して、ぜひ多くの方と話し、そこから色々なことを吸収し、ご自分の成長に繋げてください。

### ●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは——

民間企業のエンジニアとして就職したい学生さんに、技術経営[MOT]の授業をお願いしたいです。日本の企業は、これまでの価値観では世界で勝ち残っていくことができません。新しい技術を取り入れながら、どうイノベーションを起こすかということ、経営者だけではなくエンジニア自身が考える時代です。MOTの講義は起業する時にも役立つのではないのでしょうか？

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は——

私にとっては、研究室での作業や指導教員である澤渡先生との討論です。学会発表を何度かさせていただいたのですが、学会発表の前日まで結果に関してあだこうだと議論をさせていただきました。また、名誉教授の八木先生や九州大学の近藤先生といった先生方との共同研究も経験させていただきました。忙しく大変でしたが充実した研究生生活を送ることができました。その時の考え方や研究の進め方が今の自分の糧になっています。

### ●静岡大学(大学院)を卒業(修了)してよかったことは——

博士課程まで静岡キャンパスに通っていたせいか、静岡は第二の故郷のような気がします。修了してから、子どもの保育園の同窓会があったときに、通っていた食堂に家族で立寄りました。お店の方々が私たち家族を覚えてくださっていて、とてもうれしく思いました。



家族との旅行(左端が私)



# Sakiko Torii

## 鳥井 さきこ

### プロフィール

1985年 愛知県生まれ  
シンガー・ソングライター  
2008年 静岡大学 理学部 化学科 卒業

在学中に音楽サークルでギターと作曲を始める

2009年 1stアルバム「リトルキッチン」

ミディクリエイティブよりリリース

2012年 メジャー第1弾となる3rdアルバム

「大人になったら歌いたい」をリリース

2014年 農業を営む夫と山梨県北杜市に移住

現在 自然栽培の米作りを手伝いながら、  
子育て、作曲に励む。

### ●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか——

実家から近く、化学に興味があり受験しました。  
国公立であること、自然豊かで安心できる環境は母親にも好印象でした。

### ●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは——

在学中もいくつかのスカウトをいただいていたので、いずれ音楽の仕事だけで生活できると信じていました。  
金銭的に不安定な職業なので資格取得や技術取得、保険など、さまざまなことを考えました。

### ●現在の活動を通じて、強く感じていることは——

3rdアルバムをリリースして、ラジオ、新聞、雑誌、本などメディアに取り上げていただけるようにはなりましたが、卒業当初とあまり変わっていない自分に恥じることもあります。レコード会社のスタッフ、支えてくださる皆様のおかげでなんとか成り立っています。  
辞めることはすぐにでもできるので、ここまで来たのだからなるべく長く続けたいと思っています。  
現代が向き合わなければいけない家族や社会の問題を歌にして、できるだけ多くの方に聴いていただきたいです。

### ●本学在学中を振り返って感じること。静大生(後輩)へのメッセージは——

あっという間でしたが人生で一番楽しい四年間でした。  
どんな考えや性格でも、同じく人として向き合い悩みを解決する糸口をくれる先輩方や先生を大切にしてください。  
坂の上から見える静岡の町並み、田んぼ畑から見える大学越しの富士山も力をくれるのではないのでしょうか。  
沢山の事を吸収できる絶好のチャンスですから、「若気の至り」を使いなんでも挑戦していただきたいです。

### ●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は——

理学部の村井久雄先生には大変お世話になっております。  
この場をお借りして御礼申し上げます。



●鳥井さきこ オフィシャルウェブサイト  
<http://toriisakiko.petit.cc/>

(注) 2020年2月以降、下記のアドレスに移行となりました  
<https://toriisakiko.tumblr.com/>

※2020年2月現在、アルバム4枚とミニアルバム1枚をリリースしています。

●ダウンロード配信ストア [単曲価格 ¥200]

国内・海外=iTunes Store / Google Play / amazon music

国内=music.jp / oricon / mora / レコチョク / ototoy / ドワンゴジェイビー / mysound



2009.9.26リリース  
1stアルバム

### リトルキッチン

「晴れた月曜日」ほか全10曲収録  
¥2,200(税込)



2012.10.3リリース  
3rdアルバム

### 大人になったら 歌いたい

「腹の内」ほか全12曲収録  
ジャケットデザイン: 南本洋輔  
¥3,300(税込)

いま、日本政府は、  
中高生の進路選択に  
注目している！



## なぜ日本政府は、 女子中高生の進路選択を支援するの…？

日本は女性の教育水準が高いにもかかわらず、政治・経済分野への女性の進出がきわめて低いと言われていま  
す。超高齢化社会でかつ少子化傾向にある日本にとって、潜在的労働力である女性が政治・経済分野で活躍  
することは、日本の経済成長に不可欠であることから、現安倍内閣は経済戦略のひとつに、「女性の活躍」を掲げ  
ています(図1)。

図1 人間開発指数(HDI)とジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)の各国の比較



資料出所:内閣府 男女共同参画白書(平成22年度版)



一方、最近、産業界が求める人材と教育界の輩出する人材に、ミスマッチがあると言われています。それは男性よりも女性に顕著です(図2)。高校生の科学への興味は、アメリカでは男女に差がありませんが、日本では、大きな男女差があります(図3)。**日本での女性特有の進路選択の悩みを解決することによって、産業界と教育界の人材のミスマッチを解消し、性別に関係なく、個人に適した分野で活躍できるよう、日本政府は、女子高生の進路選択を支援しています。**



図2 企業の求める人材と大学の専門分野

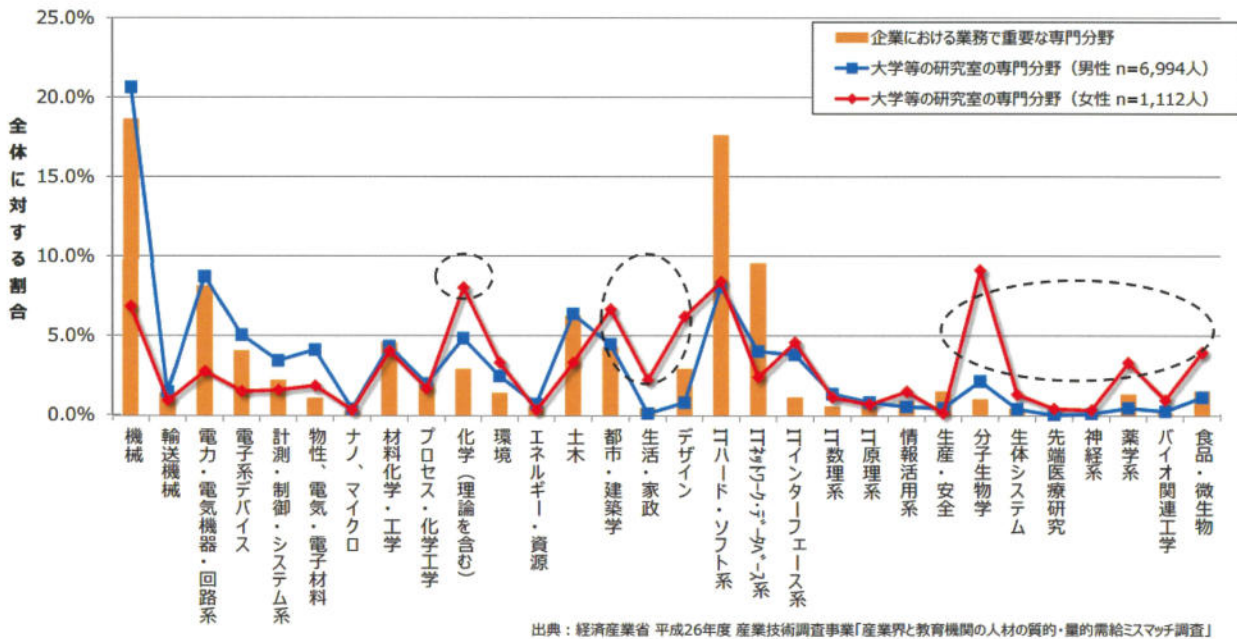
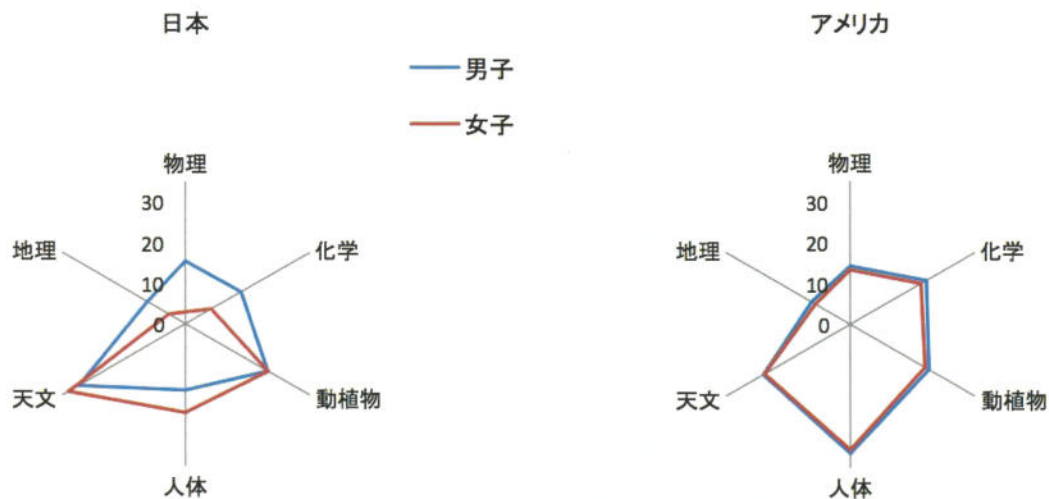


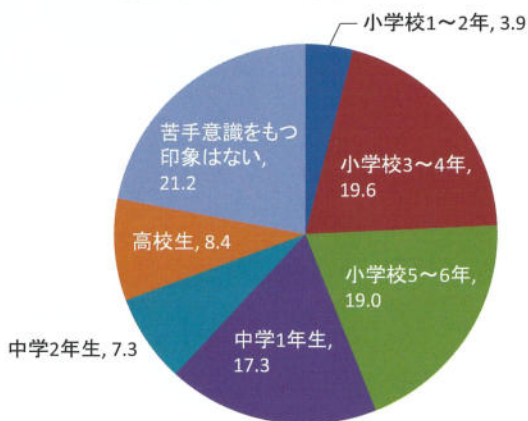
図3 高校生の科学への興味(日米比較)



\*「とても興味がある」の回答比率(%)である  
資料：国立青少年教育振興機構『高校生の科学等に関する意識調査報告書』(2014年8月)

# なぜ日本では、理系を選択する女子中高生が少ないの…?

図4 女子児童・生徒が算数(数学)や理科に苦手意識をもつ時期



出所：リケしず実行委員会アンケート調査（2016年6月～8月実施）



図5 女子児童が算数や理科に苦手意識をもつきっかけ

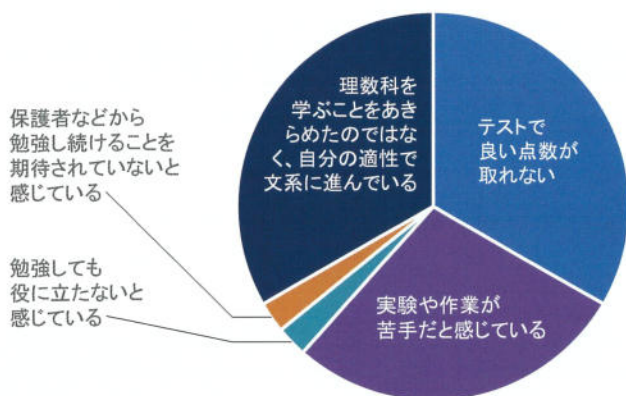
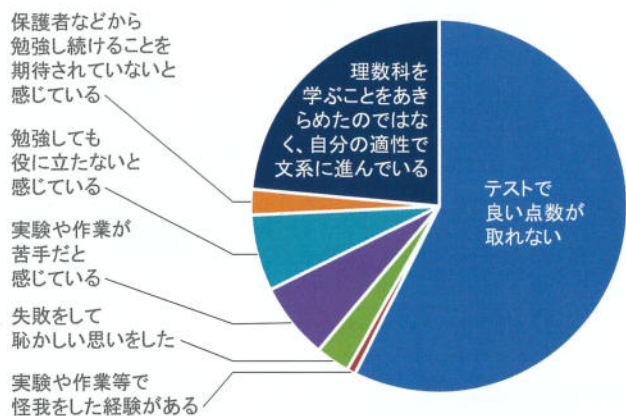


図6 女子生徒が数学や理科に苦手意識をもつきっかけ



教育学の研究では、実験で女子児童・生徒が中心的な役割を果たしにくく、科学の面白味に触れる機会が少ないという教育実践の問題、学校の先生の無意識のふるまいや保護者の考え方、友人同士の同調 圧力等、さまざまな影響があることが実証されてきました(\*)。

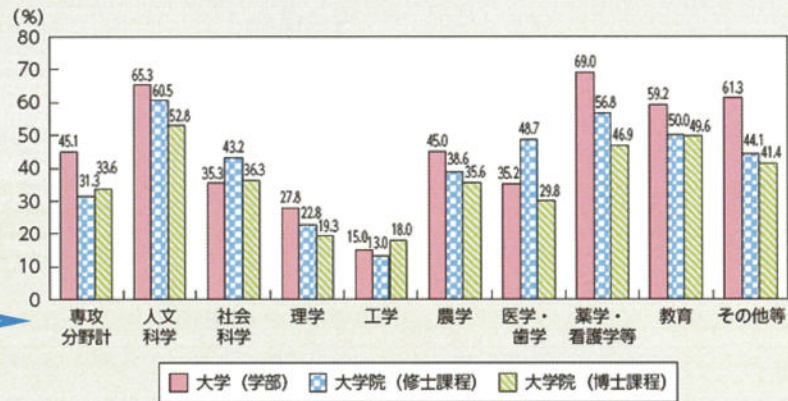
リケしずを始めるにあたり、「リケしず」実行委員会が、静岡県内の小中高校の先生方に取ったアンケートでは、女子児童・生徒が理数科目を学ぶことをあきらめる時期は、小学校3年生から中学校1年生にかけてが多いという結果が出ました(図4)。さらに、女子児童・生徒が理系を学ぶことをあきらめる理由として、小学校の場合は、「テストでいい点が取れない」「実験や作業が苦手」(図5)、中高になると、「テストでいい点が取れない」(図6)ことを数多くの先生があげています。また、「理系をあきらめたのではなく、自らの適正によって文系を選択している」という回答も多く寄せられました(図5、図6)。

「リケしず」では、これからも、小中高校の先生方とともに、結果として進路選択に、男女の顕著な差が現れること(図7)について考えていきます。

\* 村松泰子編『理科離れしているのは誰か』(日本評論社、2004年)、河野銀子・藤田由美子編『教育社会とジェンダー』(学文社、2014年)など

図7 大学生の専攻分野

I-特-2.2図 大学(学部)及び大学院(修士課程、博士課程)学生に占める女子学生の割合(専攻分野別、平成30(2018)年度)



理工系の  
女子学生比率が  
非常に低い！

(備考) 1. 文部科学省「学校基本統計」(平成30年度)より作成。  
2. その他等は、大学(学部)及び大学院(修士課程)は、「商船」、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。大学院(博士課程)は、商船の学生がいないため、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。  
3. 大学(学部)の「薬学・看護学等」の数値は、「薬学」、「看護学」、「その他」の合計。大学院(修士課程、博士課程)の「薬学・看護学等」の数値は、「薬学」、「その他」の合計。

出所：内閣府『男女共同参画白書 令和元年版』

## なぜ静岡県では、理系を選択する女子中高生が求められるの…？

静岡県はものづくりがさかんな地域であることから、小中高生を対象とした先進的理数教育に、数多くの実績があります。この活動の中で、子どもたちの理数能力や科学への興味・関心の持ち方に男女差はないと認識されてきました。それゆえ、先述の大学進学を考える段階における男女差(図7)が問題視されています。

また、最近、静岡県の人口流出が問題となっています。特に若い女性の流出が目立っているため、静岡県は対策を講じるようになってきました。県内企業や研究機関等も、女性研究者への支援活動に力を入れ始めています。

この取り組みの一環として、静岡新聞社は、高校生に地元企業の魅力を伝える「Futureしずおか」プロジェクトを開催しています。静岡県内の高校定員数に比べて、県内の大学の入学定員が少ないため、大学進学を考える多くの若者は大学進学の際に、一旦県外に出なければなりません。そのまま、県外で就職し、静岡県に戻ってこないことが人口流出の原因のひとつとされています。一方、静岡県内には、グローバルに事業を展開する数多くの世界的な企業があります。静岡県の高校生に、地元企業を知ってもらい、何も知らないまま静岡を離れるのではなく、進路選択の幅を広げてほしいという想いから、静岡新聞社は活動に取り組んでいます。

こうした静岡県の人口流出(特に若い女性の流出)という課題と、ものづくりが盛んな地域性を踏まえて、このたび中高生の進路選択を応援する「リケしず」実行委員会が発足しました。





静岡大学



編集：

女子中高生の理系進路選択支援プログラム  
理系女子夢みつけ★応援プロジェクト  
in しずおか 実行委員会

・事務局／静岡大学 男女共同参画推進室

資料提供：

静岡大学 広報誌 [SUCCESS]

・静岡大学 総務部広報室

2020(令和2)年3月発行